

2019年度 児童発達支援 自己評価 集計結果

公表日: 令和2年2月10日



	チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	✓		利用児者の特性や状況に合わせてスペースを考えている。
	2 職員の配置数は適切であるか		✓	曜日により少ない日があり、お子様のいる時間帯で増強を図りたい
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	✓		パーテーションで仕切る等分かりやすいように配慮している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	✓		加湿、除湿も含めて清潔で過ごしやすい環境の提供を心掛けている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	✓		日々の業務の振り返りを行う中で、情報の共有とともにPDCAのさらなる定着化を図る。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	✓		個別面談にて評価をお願いし、業務の改善につなげている。懇談会時にも広く意見を募り改善につなげていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	✓		ホームページを通して公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	✓		定期的にスーパーバイズを受け、環境面、療育面等について改善を図っている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	✓		臨床心理士によるスーパーバイズや、外部への研修の機会をとらえて行っている。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	✓		日々の療育において保護者からの聞き取りを行うとともに、定期的個別面談を通し、より詳しく聞き取り作成している。
	11 子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	✓		利用開始時に標準化されたアセスメントツールを用いて利用者の適応行動の状況を聞き取りしている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、そのうえで、具体的な支援内容が設定されているか	✓		ガイドラインに示されている支援内容から必要な項目を選択し、具体的な支援内容を設定している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	✓		支援計画に沿って支援を行っている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	✓		職員間で意見を出し合って取り組んでいる。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	✓		長期の休みや休日などは日ごろと違う取り組み等の工夫をしている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成しているか	✓		集団行動を行えるスペースがなく、個別活動の支援計画になっているが、同じ時間帯のお子様数人で活動することはあり、それは計画に盛り込んでいる。

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	✓		利用児者の確認、特記事項も含めて当日の動きの確認をする。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	✓		その日の情報の共有を含め、療育の内容等について振り返りを行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	✓		次の療育につなげるように日々の記録は毎度取っている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	✓		年2回モニタリングを行ってから個別面談を行い、支援計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	✓		会議へは該当児者の状況に詳しい職員が出席する。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	✓		必要に応じて、関係各機関との連携を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	✓		医療対応が必要な利用者に対しては看護師を含め連携を行っている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えているか	✓		保護者を通して情報を把握している。ケアが必要なお子さんがいらっしゃるときには看護師が見守りをしている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	✓		保育所等訪問を実施している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	✓		おこさんによって保育所や幼稚園を訪問している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	✓		イベントを介して地域との交流を図っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	✓		事業所主催のイベントの際に、一般のお子様と一緒に取り組んだ。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	✓		自立支援協議会に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	✓		療育後の状況報告や保護者との話等を通して情報の共有化を図っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		✓	経験からわかる範囲でのお話をしているが、プログラム化されたものはまだない。

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	✓		契約時及び更新時に説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	✓		年2回モニタリングを行ってから保護者との面談の際に、計画の内容を説明し同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	✓		スーパーバイザー（臨床心理士）による相談窓口を開いている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	✓		おやじの会に参加したり、茶話会を開いたりしている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	✓		主となる窓口があると共に、職員の誰にも申し入れができることは伝え、申し入れに際しては迅速に対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	✓		ホームページや定期的な懇談会を通して発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	✓		保護者への説明はもとより、文書や映像に関しても十分に配慮をしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	✓		個々のケースに応じて配慮している。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	✓		クリスマスコンサートを開催し、広く地域の方にも一緒に楽しんでいただいた。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	✓		災害時の対応マニュアルは避難訓練時に職員間で確認を行っている。防犯マニュアル、感染症マニュアルは必要性は認識しており今後作成していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	✓		年に1回避難訓練の実施をしている。職員のみで実施のため子供たちのいる時に取り組みたい。
	43	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	✓		インテーク時に服薬、持病等について確認し、適宜変更等の情報は保護者との共有につとめている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	✓		保護者を通して状況を把握している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	✓		ヒヤリハットの事例を職員間で共有し、改善策を迅速にとるようにしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	✓		研修等を開催する中、ガイドラインの提示もしている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	✓		生命に関わる事例に限られる等、保護者には契約時に説明をし理解を得ている。